

# 幸手市立吉田小学校 学力保障グランドデザイン

## 幸手市の到達指針

### 【全国学調】

- 平均正答率

### 【埼玉県学調】

- 学習方略・非認知能力の平均値
- 学力が伸びた児童生徒の割合

## 本校の学力の現状と考察

現状	考察
①全国学調 (平均正答率) 国語の正答率が算数を上回っている。	読解力をつけるための指導を繰り返し行う必要がある。
②埼玉県学調 ・学習方略・非認知能力 県平均越え項目が多い。 ・学力の伸び 多くの児童が学力を伸ばしている。	褒めて伸ばす指導を積極的に行ったことで、非認知能力が高まった。 学力の伸びに個人差があり、より個に応じた指導が必要である。
③幸手市統一学力調査(平均正答率) ほとんどの学年・教科で 全国平均を上回っている。 特に算数は、大幅に上回っている学年が多い。	算数の少人数指導の成果が出ている。

## 吉田地区の、幸手市の未来を担う子供を育てます

### 学校全体での取組

#### ❖ 学級経営の充実

困ったときに力になってくれる、できたことを褒めてくれる、自由に意見が言える、そして、全員に居場所がある学級をつくる。

#### ❖ 基礎的・基本的な知識・技能の獲得

ドリルやICTを活用し、基礎基本の定着を目指して「鍛えて育てる」指導を徹底する。その成果を毎学期ごとに漢字大会・計算大会・スキルアップチャレンジを行って確認する。

#### ❖ 様々な経験・体験の充実

子供たちは経験や体験に差があるため、様々な学習の方法やまとめ方、発表の仕方などの経験を積ませる。また、体験活動を行うことで、子供たちを同じ土俵の上にさせる。

#### ❖ 思考力・判断力・表現力の育成

思考ツールを活用することで、思考を整理・構築できるようにする。また、「Let's writing」や「スピーチコンテスト」、「立志のこたば」などで表現力を向上できるようにする。



### 落ち着いた学級づくり

#### ❖ 学習規律の徹底

「凡事徹底」を合い言葉に、あいさつ、返事、姿勢、目線、学習用具の準備、発表の仕方などを共通理解し、教員が変わっても変わらない指導を目指す。当たり前のことを当たり前に行えるようにする。

#### ❖ 一人一人を大切に生徒指導

一人一人を大切に、いじめを絶対に許さない。「なかよしアンケート」を毎月実施し、生徒指導主任を中心に、早期発見・早期解決できるように、組織的に対応する。

#### ❖ 多様な教育ニーズへの対応

子供たち一人一人のウェルビーイングを実現するために、自己肯定感を高めるとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。また、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業や教室環境をつくることで、障害の有無にかかわらず、誰もが分かりやすい、生活しやすい学級づくりを推進する。



### 学びを深める授業づくり

#### ❖ PBL型授業の実践

子供たちに問題意識をもたせるための導入を充実させ、目的意識をもって課題解決に取り組み、相手意識をもってまとめ、発表できるようにする。さらに、「授業時数特例校」として、総合的な学習の時間を充実させ、探究的な学習を実践していく。

#### ❖ ICTの積極的な活用

学習ツールとして、調べたり、まとめたりすることで、授業の質を高める。さらに、コミュニケーションツールとしても積極的に活用することで、深い学びに繋がる。併せて、情報モラルについても指導をする。

#### ❖ 「令和の幸手スタンダード5」で「主・対・深」

「令和の幸手スタンダード5」をもとにした指導過程を重視して学習を進める。主体的に取り組める授業過程、活発な話し合いや意見交流をし、自分の言葉でまとめられるようにする。教師は、子供たちの学びを確実に見届ける。



### 学校間連携・家庭連携

#### ❖ 義務教育学校開校に向けて

令和9年度開校の「東小中学校」に向けて、交流活動を積極的に行う。また、9年間の学び・育ちの連続性を重視し、「向上心」「調整力」「コミュニケーション力」「郷土愛」といった非認知能力の育成を目指す。また、「アウトメディア」にも取り組んでいく。

#### ❖ 学校・家庭・地域の協働

授業参観や学校ホームページ、学校だより等で積極的に情報を発信し、保護者・地域住民の学校への関心や理解が高まるようにする。また、子供も教員も積極的に地域行事に参加し、保護者・地域住民との絆を深める。

#### ❖ 家庭学習・体験活動の充実

「家庭学習のしおり」を配付し、学年に応じた学習時間・学習内容を示して家庭学習の充実を図る。また、家での読書を推奨する。また、地域の人材や施設を積極的に活用し、体験活動の充実を図る。

